第89号
2022/10

PVかながわ ニュースレター

News

横浜市地球温暖化対策実行計画改定案パブコメ中
温室効果ガス排出削減目標50%は妥当か？

横浜市では、令和4年度版の「横浜市地球温暖化対策実行計画（過去の実行計画は2011年3月に策定、その後2回の改定を経て今日に至る）のパブリックコメントを**10月19日まで**の予定で募集中だ。

改定素案は下の図のように三つのポイントで構成されており、ポイント2の「2030年度温室効果ガス排出削減目標50%削減（2013年度比）」がすべての議論のベースとなっている。したがって、この50%という数字が妥当かどうかが、改定素案の評価になる。この数字は、昨年4月の日本政府の宣言、「2030年度の削減目標を2013年度比46%（更に50%に挑戦）」の**50%**のコピーに過ぎない。この50%は日本全体での約束なので条件の悪い都市では30%もあり得るから、横浜のように家庭部門と業務部門が多く産業部門が少ない比較的条件のよい都市（改定素案のP17参照）ではより多くの削減が必要となろう。長野県は60%削減、世田谷区も65%削減への議論が進んでいる。産総研の歌川学さんは横浜市の60～65%削減を試算しており、60%削減設定は可能だ。その為には、各部門に於いて削減見込量の積み上げが必要となる。例えば、改定素案の家庭部門に於いて（第3章の4項P34参照）、下の表のような削減見込量の記載があるが、いずれも少なすぎる。東京都では新築建物に太陽光発電義務化を議論しているのに、この数字はいかがなものか？また、「再エネ100%電気の切替」では「全世帯の1割」とは余りにも少ない。業務部門や産業部門の削減見込量は更に少なく、業務・産業部門に遠慮しすぎる必要はあるのか。

今後、県内各市でも（川崎市は改定済）、この実行計画の改定作業が進んでいくと思われ、その際、横浜市の改定素案に右へ倣えとなる可能性があるので、他の市の会員の方も、この改定素案の内容をチェックする必要がある。パブコメ提出は**横浜市以外の方も可能**で、電子申請システム、電子メール、郵送、FAXが可能だが、簡単で量の制限がない電子メールにてパブコメへの参加をお願いしたい。　（田辺記）

（詳しくは以下のURL参照、10月19日(水)まで
https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/ondanka/jikkou/keikaku/r4pubcom.html）

3　計画改定のポイント

○ポイント１　脱炭素社会の実現に向けた「2050 年の横浜の将来像」を再定義 【第２章に記載】
「Zero Carbon Yokohama　～2050 年までに温室効果ガス排出実質ゼロを達成し、持続可能な大都市を実現する～」

○ポイント２　新たな 2030 年度温室効果ガス排出削減目標を設定 【第３章に記載】
2030 年度温室効果ガス排出削減目標　50%削減（2013 年度比）

○ポイント３　目標達成に向けた「基本方針」及び「重点取組」を設定 【第４章に記載】
2030 年度、2050 年の目標達成に向けた幅広い対策を取りまとめた７つの基本方針と、基本方針の対策をけん引する特に重点的に進める対策「重点取組」を設定

表 3-6 家庭部門における削減見込量

部門	省エネ/再エネ等	対策名	2030 年度時点の考え方	削減見込量
家庭部門	省エネ	・新築/既存住宅の省エネ化（断熱性能向上、LED 照明・高効率給湯器・省エネ家電の普及等） ・省エネ行動（エネルギーマネジメント、ライフスタイル転換等）の実施	・新築住宅での ZEH 基準が標準 ・LED 照明の普及率：100% 等	50 万トン
	再エネ等	・住宅における太陽光発電設備の普及	・太陽光発電設備導入量：45 万 kW（2020 年度：14 万 kW※）	11 万トン
		・再エネ 100%電気への切替	・再エネ 100%電気切替世帯数：全世帯の 1 割(約 17 万世帯)（2020 年度：ほぼ 0%）	27 万トン
		・電力の CO_2 排出係数の改善	・電力の CO_2 排出係数：0.25 kg-CO_2/kWh（2020 年度:約 0.45 kg-CO_2/kWh）	108 万トン
			合計	195 万トン

※10kW 未満の FIT 認定分等導入量から算出

世話人から

連絡事項

横浜市のパブリックコメントは10/19までなので、期間の短い案内になっていしまいましたが市民が環境問題を考える良いきっかけでもありますので、改定素案を確認いただき、参加の検討をお願いします。

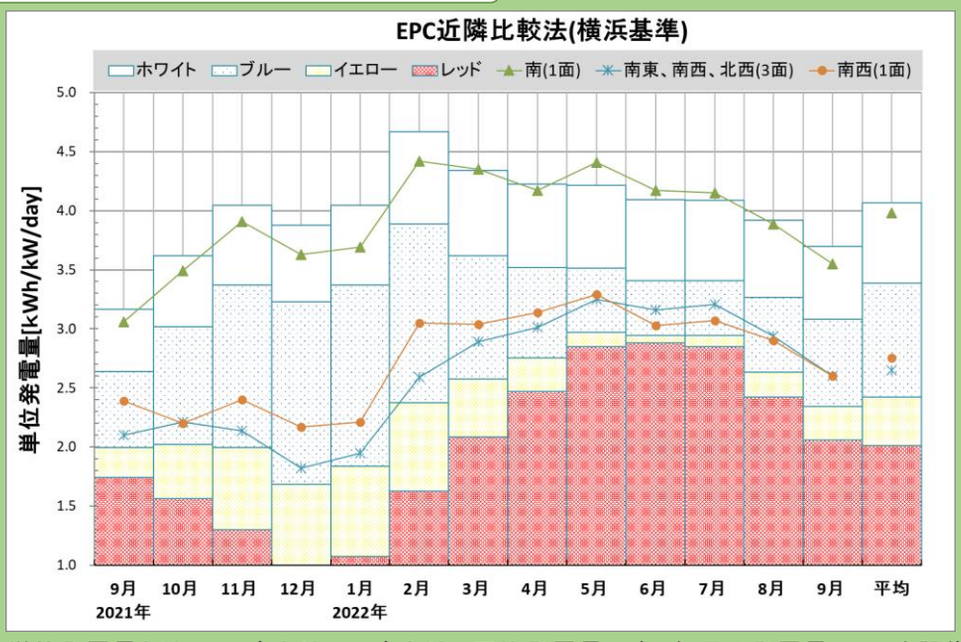
今後の予定

「出前発電所をつくろう！」ワークショップ第34回
日時：10月30日（日）　13:20～
会場：かるがも(星川駅)
（参加者募集中）

「まなぶんまつり」（保土ヶ谷）
日時：11月15日（火）、16日（水）
11:00-15:00
会場：保土ケ谷区役所
地下会議室
（開催企画を検討中！）

「子供の国・区民デーイベント」
日時：12月3日（土）9:30-15:00
会場：子供の国中央広場
ソーラーバッタワークショップ

今月の単位発電量！



横浜の9月は昨年の日照時間と比べると27%増ですが、平年比+4.7%とまあまあの発電量だったのではないでしょうか。気象庁によると9月は「北日本では、高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、北日本日本海側の月間日照時間はかなり多かった。東・西日本では、上旬は前線や湿った空気、台風第 11 号の影響を受けやすく曇りや雨の日が多かった。中旬の終わりは台風14号の影響で大雨や大荒れとなった所があり、下旬の前半は台風15号の影響で東日本太平洋側を中心に記録的な大雨となった所があった。沖縄・奄美では、上・中旬に台風11号、12号、14号の影響を受けて曇りや雨の日が多く、大雨や大荒れとなった所があったため、月降水量はかなり多かった。月平均気温は、暖かい空気に覆われやすかった北・東・西日本で高かった。」

単位発電量とは、1kWあたり、1日あたりの平均発電量です。毎月の発電量[kWh]を設備容量[kW]と日数で割ってください。
平均は直近12か月の単位発電量です。一般的に単位発電量は、ブルーの範囲になることが期待されます。北西など、やや北向きがある発電所はイエローになることもありますが、レッドが続く場合は、メーカなどに相談することをお勧めします。
※近年の太陽光システムは均質化や効率改善が進み、2000年初頭の物に比べ、実発電量が10%以上多くなることもあるので、補足としてホワイトを設けました。